

四国足摺岬沖南海トラフでのマルチチャンネル反射法地震探査

Multi-channel seismic reflection study in the Nankai Trough off Cape Ashizuri of Shikoku

朴 進午 [1], 鶴 哲郎 [1], 小平 秀一 [2], 仲西 理子 [3], 高橋 成実 [4], 東方 外志彦 [1], 三浦 誠一 [5], 木戸 ゆかり [6], 金田 義行 [5], 木下 肇 [4], 河野 芳輝 [7]

Jin-Oh Park [1], Tetsuro Tsuru [2], Shuichi Kodaira [3], Ayako Nakanishi [3], Narumi Takahashi [4], Toshihiko Higashikata [5], Seiichi Miura [3], Yukari Kido [6], Yoshiyuki Kaneda [7], Hajimu Kinoshita [8], Yoshiteru Kono [9]

[1] 海洋センター・フロンティア, [2] 海洋センター 海底下深部構造フロンティア, [3] 海技セ・フロンティア, [4] 海洋センター・深海研究部, [5] 海技センター・フロンティア, [6] 海技センター・地震フロンティア, [7] 金大大学院・自然・物質

[1] JAMSTEC, FRPSD, [2] Frontier, Jamstec, [3] FRPSD, JAMSTEC, [4] DSR, JAMSTEC, [5] JAMSTEC Frontier, [6] Frontier Res. Prog. Subduction Dynamics, JAMSTEC, [7] JAMSTEC, Frontier, [8] JAMSTEC, DSR, [9] Earth Science, Graduate Schl. Nat. Sci. Tech., Kanazawa Univ.

南海トラフは、過去に巨大地震が繰り返し発生していたことから地震発生評価を行う上で世界的にも重要なフィールドとなっている。平成10年10月、四国足摺岬沖南海トラフ海域において沈み込み帯の精密構造解明のため、海洋科学技術

センターはマルチチャンネル反射法地震探査システムおよび海底地震計を用いた総合的地震探査を実施した。本講演では、その探査で得られた反射法データを示し、南海トラフ沈み込み帯の地質学やテクトニクスについて地震発生評価の観点から議論する。

南海トラフは、過去に巨大地震が繰り返し発生していたことから地震発生評価を行う上で世界的にも重要なフィールドとなっている。平成10年10月、四国足摺岬沖南海トラフ海域において沈み込み帯の精密構造解明のため、海洋科学技術

センターはマルチチャンネル反射法地震探査システムおよび海底地震計を用いた総合的地震探査を実施した。本講演では、その探査で得られた反射法データを示し、南海トラフ沈み込み帯の地質学やテクトニクスについて地震発生評価の観点から議論する。